

ピンスポット

作家 小野 陽太郎さん(62)

野鳥が鳴く北区・釈迦谷山の山頂付近の標高約260坪に自宅がある。京都市内が一望できる緑に包まれた環境に育ち、造園の道に。「庭園は日本の精神文化。小さな庭から宇宙を感じるような庭を心がけている」岡山大農学部園芸学科を卒業、70年に独立した。「京都石

仏会」で石仏や石灯籠を調査研究して石が持つ魅力にひかれ、作庭のメインに。雨風に打たれる石には時の流れが刻まれ、思想性も感じる。

モットーとする「寸庭」の精神。「一寸でも庭はできる。狭いところから永遠の時間、宇宙を表現しようと考えてきた」。

「寸庭」に永遠、宇宙を

京都造形芸術大構内で88年に作った庭は、奥行き1〜2坪の場所。つくばいに水滴を垂らし時の変遷を表した「刹那の庭」、弥勒如来の石仏を中央に、酸化処理して古色を出した石を配した「永劫の庭」。「そこに風が通ると、いのちを感じられる」石仏群をあしらった奈良・元興寺庭園、京都・大原野古墳復元移築も手がけた。

古武道・竹内流師範の顔を持つ。祖父の影響を受けて始め、自宅敷地に入門者を指導する道場を構える。「作庭も武道も、心の目で見る『間合い』が大事」。尊敬する宮本武蔵が描いた毛丈の墨絵に見られる「余白の美」こそ、作庭の基本だと思う。

昨秋、招かれた南仏の古城で日本の自然観について講演した。その縁で、レストランの庭造りを今年、手がける。「『寸庭』の精神を海外にも広めていきたい」(土岐直彦)

